

# —大雪山のアイヌ語地名③—

前回は国土地理院の五

載を見ていきたい。

基本文献と言われている。

ここでは『札幌県巡回日誌』

の丸木舟が転覆し、野帳

も、安足間川の上流で、

アイヌ語表記の「ヌタフ

『改正北海道全図』は、

また、『湖沼調査帖』は、三

日誌の大雪山関連の記事を

運があったが、十五日に

『ヌタフカウシベ』(Nuta-pka-u-si-be) 大沼、小沼な

カウシベは、山田秀三に

この地図は、内務省地理

局地理課の高橋不二雄

と、札幌真地理課の福士

は、現在の湖沼の位置を

『沼ノ平』のものに、いつも

沼ノ平)のものに、いつも

成豊)の作成された。

高橋と福士は、北海道

の中央に相当する上川

を測量し、その経緯度並

びに高度を明らかにし

て、北海道地図の基礎を

定めることに主力を注

した。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

とされた、『改正北海道全

図』(明治二十年五月地

理局刊行)の大雪山の記

述に、

とされた。

十六日に登頂に成功し

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

高橋不二雄は、この調

査の詳細を、写真の『札幌

県巡回日誌』でスケッチ

した。

た。

た。

## 断章 旭川のアイヌ語地名研究

169

高橋 基

『新旭川市史』第六巻史料一に掲載されていて、詳細を知ることができ、上川地方史研究の



第18号10月26日 大雪中ヲフタテシケ山上ニ登リ東南ニ最高ノ嶺ヲ見タル図

札幌縣巡回日誌

て、視覚に訴えて理解しやすく出色の作品である。

九月六日に、比布のウ

た。(前回の山田地名解

こころでは、『札幌県巡回

の丸木舟が転覆し、野帳

も、安足間川の上流で、

日誌の大雪山関連の記事

運があったが、十五日に

『ヌタフカウシベ』(Nuta-pka-u-si-be) 大沼、小沼な

事を簡単に紹介すること

は、現在の湖沼の位置を

『沼ノ平』のものに、いつも

とにする。

この調査には、明治七

た。

年のライマ

源のベテットウシカム

高橋不二雄一行は、そ

の松本十

高橋不二雄は、松浦武

ツにたどり着いた。そし

郎の調査に

四郎やライマンが十勝

岳と誤聞していた山を、

同行した経

岳と誤聞していた山を、

た。

験のあるア

「ニセイカウシベ」山

石狩川ノ水源ニ達シ

イヌのアヤ

「現・ニセイカウシベ」山

タルハ、「ライマン」並

シが案内役

山」とし、また、「石狩岳

ビニ松本十郎、小官

に雇われ

と誤称していた山を、

(高橋不二雄)等ノ三

た。まず、そ

フタテシケ山と見てと

千尺以上ヲフタテ

ら、石狩岳

の山を「石狩岳」とした。

シケ山「ニセイカウ

十勝岳」登

その後は、食料や塩の

シベ」山ヲ西岳ニ

り、石狩川

欠乏に悩まされ川魚で

登リ、経緯度ヲ測リ、

水源を探索

飢えを癒しながら川を

且ツ水源ヲ悉ク探索

する。隘路に

下り、さらに、帰途の十月

セシハ、今回ノ一行ニ

ついて聞

十五日に、「フタテシ

止ルナリ。

き、石狩川

ケ(現・旭岳)を目指し

アイヌ語地名研究発表

の水源地登

て、アンタラマ川を溯り、

※毎月第 週刊に掲載します

山して経緯

風雪と寒気を自して、二